

『黄色のデイズ』

新島学園高等学校 黄色のデイズ

多様性の社会で、空き家を利用して自分らしくいられる場所を創出するプランを提案。



『ほっと空き家キッチン』

新島学園高等学校 ほっと空き家キッチン

空き家を利用しほっとできるレストランを開店。参加者が畑で野菜を収穫し料理を作る体験ができる場の提案。



『ゴミからおしゃれへ！』

キッチンアクセサリClear Ocean

安中総合学園高等学校 Clear skies

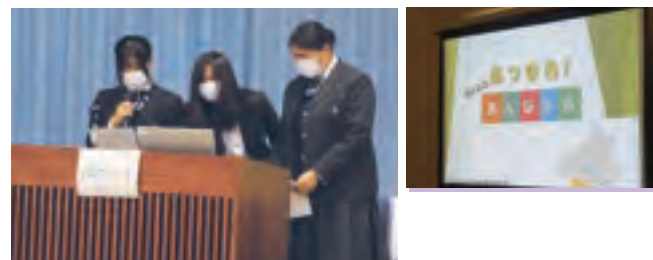
ペットボトルキャップでアクセサリを制作・販売するプランを提案。



『あつまれ！みんなの安中市』

安中総合学園高等学校 イチゴちゃん

観光客を増やし地域の魅力を再発見。人口減少の解決につなげたいと20代の女性をターゲットにした旅行プランを提案。



『一人でも多くの子供をsmileプロジェクト』

安中総合学園高等学校 チームthe strongest warriors

農家連携型の子ども食堂の導入についてのプラン。



地域資源の活用や地域の課題解決に 高校生の新たな視点

第3回 高校生ビジネスプラン コンテスト

安中地域の高校生を対象に募集した「地域の未来を創造するビジネスプラン」のコンテストが、令和6年11月2日に安中商工会で行われました。新島学園高等学校2年生と安中総合学園高等学校3年生の各4チームが参加し、堂々のプレゼンテーションを展開しました。



コンテストを主催したのは、「あんなか創業支援ネットワーク」です。群馬県信用組合、安中市、安中市商工会、安中市松井田商工会、日本政策金融公庫高崎支店、群馬県信用保証協会高崎支店、関東信越税理士会高崎支部の計7団体で連携し、それぞれの得意分野を活かして、お客様の経営相談、経営改善、新たに事業を始める方々にコンサルティング面や資金面などの支援を行っています。

ビジネスプランコンテスト開催に当たり、ネットワークの専門スタッフが高校への出張授業を行い、創業に関する情報提供やビジネスプランの作成等、高校生をサポートしてきました。

コンテストは、20代〜30代の市民の声を反映した施策「あんなか再起動プロジェクト」に取り組む岩井均安中市長の挨拶で始まりました。

次に3名の審査員が紹介されました。

審査員長は、出身地の磯部温泉で空き家をリノベーションした旅館「一棟貸切の宿旅邸 一人十色」などを運営する株式会社アクロバティックス代表取締役の依田沙希さん。

審査員は、次世代たんぱく質として食用コオロギに着目。昆虫由来食品の市場を創造し、環境問題や食料危機のリスク低減への貢献をめざす高崎経済大学発のベンチャー「FUTURE N A U T (フューチャーノート)」代表取締役CEOの櫻井蓮さん。

そしてもう一人は、あんなか創業支援ネットワーク関係機関から、創業支援に携わる株式会社日本政策金融公庫高崎支店長の中島剛さんです。

プレゼンテーションは、休憩をはさんで前半と後半に分かれ、1チーム5分の持ち時間で行われました。発表後に審査員1名より講評をいただきました。



審査員長を務める株式会社アクロパティックス代表取締役の依田沙希さん。地域経済を牽引する企業を選出するプロジェクトで、「群馬を代表する企業100選」に選出されています。磯部温泉で空き家をリノベーションした「一棟貸切の宿 旅邸一人十色」は年間稼働率86%を達成。

今回のビジネスプランコンテストは、コロナ禍を経て5年ぶりの開催となりました。改めて思うのは、自分自身の体験や感じたことの中に、ビジネスの着想があるということです。私は現在観光業を仕事にしていますが、幼い頃の体験があります。ひどいアトピー性皮膚炎で中学生の時に草津温泉に通うと半年ほどでアトピーが完治しました。温泉はすごい！と思った経験が、旅行関係の業界で働くきっかけになり、悩みがビジネスにつながりました。そして共感し合える仲間ができたことが財産になっています。

審査に当たって、各チームの得票数に大差はなく審査員もめましました。皆さんには審査結果にとらわれず、この経験を生かして起業家をめざし、新しいビジネスを育てて欲しいと期待しています。



安中総合学園高等学校 松岡教諭

ビジネスとして成立するためには継続的な利益が必要です。どうしたら利益が出るかを考えるのは難しかったと思います。



先生方からの感想

新島学園高等学校 小林教諭

当校では高校1年の授業で安中市をよりよくしていくためにはどうしたらいいかを考え発表しています。今回、2年生が教室を飛び出して発表する機会を得ることができました。高校生が考え意見を発信していく場をいただきましたことに感謝します。

安中総合学園高等学校 後藤教諭

今日まで出張授業などを実施していただき、生徒にとっては普段の授業とは違う刺激を得ることができたと思います。今、群馬県の中で「エージェンシー」という言葉がキーワードになっています。人が生まれ持っている社会をよりよくしていくという意志や原動力のことで、急速に変化する現代社会の中で養うべき大切な力です。今回、社会問題や地域の課題に興味や当事者意識をもち、周りとコミュニケーションをとりながらビジネスプランを作り上げられたことが、エージェンシーを育てることにつながっていると思います。

審査結果

商品やサービスが高校生ならではの独自の発想であるか。顧客（ターゲット）を具体的に想定しているか。最低限必要なヒト・モノ・ノウハウ・リスクなどを考え、現実味のある検討がされているか。プレゼンに表現力や説得力があるかなど、4つの基準で審査が行われ、3チームに優賞・準優賞・敢闘賞が贈られました。

優賞



『若人ガイド』

新島学園高等学校
端田奏和さん



「10人に声をかけたら、面倒だと10人から断られました」と一人で参加した端田さん。ゼロから何かを作り出すのが好きというのが参加の理由です。幼いころから旅行好きで、コロナ禍後に回復した旅行業において、旅行の在り方が大きく変化したと感じました。宿泊旅行を地域活性化につなげたいとの思いから、ホテル、飲食店、公共交通機関を利用する旅行に加え、地元の高校生や大学生がツアーガイドとなるビジネスプランを提案。実際に磯部温泉に宿泊する旅行プランを紹介しました。

準優賞



『トラスタ』 (トラディショナルスタディ)

新島学園高等学校
SAME Cチーム
松岡夏奈さん・金子雅弥さん
横山聖和さん・四元万与さん



小中学生が気軽に行けて安価に利用できる交流の場を提供するビジネスプランを提案。次世代・多世代との交流の機会を増やすとともに、地域の伝統文化や芸能を受け継ぎ次世代につないでいくのが目的。自分たちの身近な経験から発想しました。

放課後に小学校の校舎や校庭を活動の場として、勉強したり外で遊んだり、年に数回は伝統文化・芸能について教えてもらったり、郷土料理をつくったりします。参加したい時だけ参加費を払うというシンプルな利用法。運営にはアルバイトとして高校生の参加も視野に入れています。

敢闘賞



『失恋代行サービス』

安中総合学園高等学校
アンソーチーム
清水弘汰さん・原幸大さん



「代行サービスについて、こういったサービスがあったら助かるなというサービスはありますか？」と語りかけから始まったプレゼンが印象的。「退職代行サービス」にヒントを得て『失恋代行サービス』を思いつきました。配偶者暴力相談支援センターへの相談件数の推移の資料や、失恋経験を問う15歳から49歳までの男女1000人へのアンケート資料を提示。相手に別れたい意志を伝える代行サービスは、中学・高校・大学生・既婚者などをターゲットに、必要であれば弁護士の手配や別れた後のサポートも行うというものです。